

## 2017年度卒塾生 英プリ

先月に引き続き、2017年度卒塾生のエピソードを書かせていただきます。今月は3年になってから英語の力をぐんと伸ばした女の子のお話です。

中1の初めから、その子にとっては真面目でした。宿題はきちんとやってきます。パートテストはちゃんと合格します。理社国の確認テストは計画的に受け、期限内には毎月すべて受け終わっていました。“素直で真面目”—この美德のおかげで中2までは特に大きく困ることはありませんでした。

ちょっと危機感を持ち始めたのは中3になってからでした。2年の後半から自分の中で少しあいまいな部分が出てきた英語が、中3になってから驚くほど難しく感じられました。過去分詞という新たな動詞の形が出てきて受動態の文を作ったり、同じ過去分詞を使って3つの意味のある現在完了形の文を作ったり。1、2年の時とは比べものにならない難しさです。

実際、中3になってから英語がガタッとできなくなるという塾生を私は今まで何人も見てきました。英語の力というのは、日本語を理解する力、日本語を書き換える力、英文のさまざまなルールを頭の中で整理し正しく引っ張り出してくる力、そして何より細かいことに気づける注意力、それらが土台なのです。単語は覚えているのに読解や英作ができなくなる塾生というのは、こういった力が不足していると言って間違いないでしょう。

崩れたままになってしまう生徒が多い中、彼女はここから立て直し始めました。立て直すということは、土台から作り直さなくてはなりません。塾の宿題としてほぼ毎回出される英作中心のプリント、通称「英プリ」に、彼女は真剣に向き合い始めました。まず、プリントの一番上の余白にこのプリントで練習すべき文法事項と注意点をまとめて、頭を整理しました。次に、すべての日本語には主語と述語に線を引き、文末表現が過去だったり特殊な意味を持つものだったりした場合にはそこを丸で囲みました。主語が三人称単数かどうかを一文一文確認したのは言うまでもありません。前置詞の使い方がわからなかった場合には、すぐさま教科書や辞書で調べました。こうやってすべての文に丁寧に向き合っていると、一枚の英プリをやり終えるのに一時間以上かかりました。これを毎回、一年間続けたのです。いつしか頑丈な土台が出来上がり、立て直すことができていました。それどころか英語は得意教科に。さらにさらに日本語理解力と注意力が高まった効果から、数学や理科、国語まで伸びました。“素直で真面目”な彼女は、素晴らしいことに地道に誠実に努力を続ける根性も持ち合わせていたのです。